

## コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名:子どもと若者の居場所づくり事業

■コーディネーター氏名:中盛 汀

所属:W.T.A まちづくりセンター

■ふりかえり会議開催年月日:平成 17 年 3 月 15 日(火)

### 1. 協働のプロセスについて意見

もとは四日市市の委託事業だったが、振り返り会議をするにあたり、連絡がうまく伝わっていなかったことと、あわせて、「NPO 法人 ひまわりの仲間たち」が県の青少年の居場所作り事業を受けていたことなどもあり、当日の連絡や資料などがそろわなかった。このあたりは事前に担当者間の連絡調整や、振り返り会議についての意義などをまだ伝えきれていないのではないかと。また、当日、市の担当者が出席されなかったため、会議自体が委託を受けた「NPO 法人 ひまわりの仲間たち」と、一緒に事業に取り組んだ四日市北高等学校の協働のあり方についての中身が重点的な内容となった。

「NPO 法人 ひまわりの仲間たち」が四日市市の「子どもと若者の居場所づくり事業」の管理運営団体として、委託を受けることになったいきさつには、四日市市と前委託団体の間に意見の相違などがあったとのこと。今回は「NPO 法人 ひまわりの仲間たち」が目指す部分と合致する部分があったので、申し込みをしたという。

平成14年10月から「子どもの居場所づくり」に取り組んでいた四日市北高校は、四日市大学の生徒を補習で受け入れたことなどから商店街の活性化に取り組むべくマップ作りなどを過去に実施。「NPO 法人 ひまわりの仲間たち」と合同で、若い人が集って交流できるように授業の一環としての取り組みを続けている。また、今回の委託では場所の管理運営の関係で、四日市市勤労青少年ホームを対象としているため、ひまわりの商店街の事務所と絡めての活用に取り組んだとのこと。

協働相手としては、「子どものこと」を違う立場から考えるが、目指しているところが同じということで、市の担当者は半年は意見の相違も多かったが、後の半年は一緒になって考えてくれて、よかったとの感想があった。

四日市北高校は夜間専門の学校で、最近中間部の学生の受け入れが始まったそうで、生徒としては引きこもりの子どもも多いという特色があり、ひまわりによるカウンセリングを受けたりという連携がもともとあったので、両者の連絡のやり取りとしては普段からも密に取り合っていたということで、事業に対して両者一緒に話し合い、子どもを中心に取り組んだといういいプロセスを歩んでいるといえる。

## 2. 成果についての意見

この委託事業を受けて取り組み始めたのではなく、以前からの取り組みの一環としての流れがあったので、前年度の課題を今年度にはいい方向に展開されていたのではないかと。

実際に商店街との連携では、子どもたちも商売の表面だけではなく、陳列や POP などの裏方の体験をすることで、今までの固定観念以外の部分への気づきがあったり、学生との交流などもスムーズにいくようになっているそう。

また、土日だけの青少年ホールの会館では活動としての展開が難しいことから、商店街のひまわりの事務所を平日に活用するなど、つなげている。

大人主導型ではなく、子どもの自主性を大切に活動展開を目指していることや、異年齢交流も自然に行われているということなどを合わせても、続けて行く中から、確実に成果が生まれているといえる。

## 3. 課題・改善の整理とまとめ

子どもたちの自主性を大事にして、子どもたちがしたいことを形にして行くという流れで、チャレンジショップや、空き店舗の利用、ビジネス基礎講座の生きた授業などに活かせるように、商店街ともいいつながりができてきている。今後はそれを実現、実践できるように、ということが課題とのこと。

そこにはまた、別のNPOとのつながりなどからも情報が集まり、アイデアも出て、面白い展開になるのではないかと。

今後の活動展開が楽しみな、いい協働だったと思う。

## 4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

事業自体については、四日市市もひまわりも四日市北高も、それぞれにいい協働ができていたように思う。子どもが置かれている現状に対しての取り組みとして、居場所を展開し、また、かかわった子どもたちの自発的な企画を支援し、イベントを実施したことなど、これからもさらに期待すべき点もたくさんある。

来年度以降、この取り組みをどのように四日市市が支援し、また、子どもたちのやりたい企画のひとつ、チャレンジショップを実現するための取り組みなども、ぜひ子どもたちとともに資金集めなどあらゆる面から実現へ移行することで、さらに子どもたちにとっての体験は広がると思う。

事業とは別に、この事業を通して、振り返り会議の意味やチェックシートの更なる活用のための取り組みも必要だと痛感した。

## コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名： ひまわりの仲間たちとの合同授業

■コーディネーター氏名・所属： 畑中 英樹(さかなの目たんけん隊)

■ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年 3 月 15 日

### 1. 協働のプロセスについての意見

NPOと四日市北高校の担当者から、協働相手である四日市市の協力について話を聞きましたが、市への不信感がとても強いと感じました。信頼関係の問題です。市の方では委託契約に基づき NPO 側に場所等を委託したのだから、「全てお任せした」という考え方が、NPO 側の話から見え隠れしていました。また、市が作成した管理運営団体の募集要項の中で「青少年を支援するために有効で、子どもと若者の居場所づくりで行いたいことがあればご提案下さい。」という文言が明記されていますが、その一文が持つ意味をどこまで共有できたのでしょうか。四日市市の担当者の方や部署が、どこまで先のビジョンや方策を NPO 等と共有しているのか等、お聞きするいい機会だったのですが、当日は都合により欠席のため、確認できなかったのは残念です。

しかし、現場が市に対して再三にわたり、具体的関与を求めた結果、徐々にではあるが、改善の兆しが見えてきたと聞きました。もっとも最初の段階で確認の意味でも、双方がよく話し合った方がよかったかもしれません。

来年度もこの事業は継続と聞きますから、もう一度スタート地点に戻ったつもりで、NPOと高校、市が出来ること出来ないこと等を、一年間を振り返りながら確認する作業が必要だと思いました。

### 2. 成果についての意見

僅か一年間で目標としていた結果を引き出すのは、なかなか難しいことと思います。NPO の方から「学校や家では悩みや本音を言わない子が、ここではすべてを話してくれる」という言葉が、とても印象に残りました。場所とは機能。相談業務をこなす上で、様々な人との交流促進ができつつあると思います。

### 3. 課題・改善の整理とまとめ

NPO と高校のホームページでも、もっとこの事業の情報発信を進めたらよいと思います。また、NPO と高校の担当者の個人的負担もかなり大きいと感じました。やはり、継続性が大事ですから、各組織内で事業の役割分担や外部とのネットワーク強化ももっと進めれば、長期的にメリットがあると思います。あと、受益者である子どもたちの声が、運営に反映できる仕組みの立て直しが急務だと思います。

### 4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

四日市市が県内で最もひきこもりの子供が多いと聞きますが、この居場所がひきこもりや青少年問題の最前線基地になる予感がしました。また、これらの問題は長期戦になることが必至ですので、やはり事業の継続性が大事です。居場所事業は、夢や悩みを持つ子供たちへ、地域が提供する幅広い選択肢の一つです。NPO や高校が四日市市を逆に引っ張っていくという姿勢が、居場所事業にさらに多くの付加価値をつけていくと思います。